

平成26年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	果樹振興対策事業			
予算科目	6款 1項 3目			
総合計画での位置付け	産業の振興～もりもり元気なしごとづくり～ 農業の振興			
所管課情報	担当課: ブランド推進課		電話番号(内線): 983-6350(706)	
記入者情報	所属長: 米湊 誠二		担当責任者: 向井 裕臣	
事業の性格	法定事務			
実施期間	【開始年度】平成 23 年度 【開始年度】平成27年度			
事業の対象	紅まどんな生産者			
根拠法令等	伊予市果樹戦略品種等供給力強化事業実施要領等			
事業の目的	県果樹農業振興計画に基づく戦略品種のブランド化促進に資する生産体制の整備と、果樹栽培の基幹となる周年供給・高品質生産体制の整備等について補完し、産地供給力の強化を図ることで、将来にわたる果樹産地の維持・発展に貢献する。			
事業の内容	紅まどんなの雨よけハウス設置・栗のくん蒸処理施設整備・キウイフルーツ薬採取機購入補助事業			
改善策の 具体的 取り組み (当初)	事業効果は高く、最終年度に向け引き続き適正な事業実施に努めるのみであるが、ブランド化の推進において有効な県主導の事業であり、来年度以降も有望品目の支援を協働で実施するよう要望に努める。			
改善策の 具体的 取り組み				

事業費及び財源内訳					
項目		25年度決算	26年度予算	9月末の執行状況	26年度決算
事業費	直接事業費	6,103	18,981	0	18,981
	人件費	813	1,590	795	1,590
	合計	0	20,571	795	20,571
人件費 内訳	人工数	0.10	0.20	0.10	0.20
	人件費単価	8,135	7,954	7,954	7,954
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	813	1,590	795	1,590
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	4,069	11,737	0	11,737
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	2,847	8,834	795	8,834

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	25年度実績	26年度予定	9月末の実績	26年度実績
事業計画(実施)面積	a	93.53	245.39	-	245.39

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	5年間の実績
	8,000	0	0	0	0	8,000

成果指標				
成果指標	当該年度の実施面積／当該年度の計画面積×100			
指標設定の考え方	長期計画のもと、当該年度に事業実施主体が計画する事業面積と、実施面積を比較することで事業効果を測る。なお、栗のくん蒸処理施設整備とキウイフルーツ薬採取機購入は、県において高い効果が認められた単年度事業であり、指標設定は行わないものとする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	100%	100%	0	0
実績	100%	100%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	今年度は、雨よけハウス、栗くん蒸処理施設に加え、キウイフルーツかいよう病等の発生に伴う薬採取機の補助を行い、産地維持に加えブランド推進においても高い効果が伺えた。なお、果樹振興に有用な事業であるが、来年度は最終年度となることから、県に対しメニュー精査のうえ継続実施について要望する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	H23～5ヶ年の県単独事業として実施され、本事業もH27年度で最終年を迎える。えひめの農作物等のブランド化に大きく貢献した事業でもあることから、今後も県への事業の継続延長についても、各団体や協議会から要望している。本市としても紅まどんなや栗の生産等に大きく貢献した事業であり、今後一層の支援が必要な事業である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・ブランド化の推進は供給力の強化だけでは不十分である。シートには書かれていないが、販売が一番問題である。・果樹の加工をして、もっと売って儲けないとなかなか値が付いてこないと思う。・成果指標は、売上高がいくらになったとか、ハウス整備によりどれだけ収益率が上がったかとかいう数値の方が良い。・高品質の果樹を作りたいというのであれば、出荷量や価格が指標として出てくるのが普通ではないか。・農協への出荷に農家も苦勞しているのだが、ルートは多方面にある。違うルートも開拓した方が良いと思う。・自己の課題認識等々で具体的な内容が分かるので、事業の対象者は生産者等とぼかしていただければと思う。・補助の実施主体がJAえひめ中央であると書かないと分からない。誤解を生んでしまう。表現に気を付けるべきである。</p>
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>現状のまま継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	